

人間国宝・故 福田喜重の工房×京都西陣のねんきん綴錦・柵屋高尾
初のコラボブランド「SIORI」を5/17～18 東京・新宿で発表

業界で初めて製造元の染と織がコラボし、和装での完全オートクチュールを実現

ねんきん綴錦の株式会社柵屋高尾（本社：京都市、代表：高尾朱子）は、福田工芸染繡研究所（株式会社福田喜、本社：京都市、代表：福田喜之）と協働で、5月17日～18日、東京・安与ホール（東京都新宿区新宿）にて、染と織の初のコラボブランド「SIORI」を発表します。SIORI では染と織の製造元が和装業界で初めてダイレクトに顧客とやり取りを行う完全オートクチュールを可能にしました。自分だけの着物や帯ができあがる過程を、画像や動画または現地で確認できるのも業界初となります。5月17日（金）9：30から11：00までメディア関係者様向けの時間を設けます。

分業製造が伝統的な和装業界で初、顧客一人ひとりに寄り添ったきものづくりを。

柵屋高尾は西陣の名工のひとりであった先代 故 高尾弘の時代に、徳川美術館所蔵の「ねんきん」と呼ばれる珍しい裂の再現をきっかけに特殊な金糸のオリジナル制作を始めます。この金糸を用いたねんきん綴錦は独自性の高い質感が持ち味で柵屋高尾のシンボルとなります。

一方、福田工芸染繡研究所は、刺繡の人間国宝であった故 福田喜重氏の「繡・染・箔」の工房。それぞれの工房の後継者たちが、次の時代を生きる本物のきものファンのためのブランドを考えて立ち上げたのが「SIORI」です。コロナ禍の2020年、今後のモノづくりへの不安感や疑問を共有したことから協働を始め、織の素材である和紙を使った箔という素材に、福田工芸染繡研究所が一つ一つ手描きで柄を描き、できあがった絵箔を今度は柵屋高尾が一本一本手織りにて丁寧に取り入れて織り込んでいく。そして2024年工房公開を通じて直接お客様の声を聴く機会を持つ中で出した結論が、“和装オートクチュール”。これはお客様と製造元が共に喜びを分かち合える他には類を見ない仕組みで、長らく分業での製造が伝統的だった和装業界では初の取り組みとなります。

自分の着物や帯ができあがっていく過程をリアルタイムで共有する業界初の仕組みを構築

SIORI では、自分だけの着物や帯ができあがる過程を、画像や動画または現地で確認できる仕組みも業界で初めて構築しました。フルオーダーもセミオーダーも含め、自分たちの製造工程をお客様に公開し共に作り上げていくことで、安心して自分だけの唯一無二のきもの

をつくることができます。発表会ではサンプルとなる着物や帯のほか、こだわりの SIORI モデルの SDGs の帯（参考資料参照）も披露いたします。

<お問い合わせ先>

SIORI 販売代理店 榊屋高尾金閣寺サロン

住所：京都市北区衣笠馬場町 47-3

直通電話：075-204-5858（担当：田中靖人） email：kinkaku@masuya-takao.co.jp

<参考資料>

■発表会概要

日時：令和6年5月17日(金) 11時～18時

18日(土) 10時～17時(最終入場 16:30)

場所：安与ホール/新宿柿傳ビル(安与ビル) 7F

JR 新宿駅 中央東改札より徒歩1分(ビル1F あおぞら銀行)

〒160-0022 東京都新宿区新宿3丁目37番11号 安与ビル7F

TEL 03-3352-5123/FAX 03-3350-5111

<https://www.kakiden.com/>

内容：染と織の初コラボブランド「SIORI」第一回発表会

■メディア向け発表会のご案内

日時：令和6年5月17日午前10時～11時

両社代表が同席致します。

ご来場の際には事前に上記連絡先までご連絡頂けますと幸いです。

■榊屋高尾について

榊屋高尾は昭和初期、会長・弘の父親の代に兄弟二人で織屋を起業したことから始まります。その後店を分け、織屋を起業する以前の茶染め屋の時代の屋号である榊屋を継承し、榊屋高尾と名付けました。のちに会長・弘が19歳の頃に父親が亡くなり家業の道へと入ることになります。伯父である高尾菊次郎を師匠とし、その菊次郎の元には民芸運動の作家たちが多数出入りをしてきた為、織物制作上の原点となる文化性が育まれました。

1978年には名古屋の徳川美術館より美しく輝く黄金の「・金袷紗」の復元の依頼を受けます。初めて見る素材が使われていたこの袷紗の復元を成功させた折に誕生したのが「・金糸」。この糸は太さにばらつきのある手紬真綿に金色の箔を巻きつけた糸で、箔が輝く部分と箔の間隙から真綿の色彩が覗く部分を併せ持った材料です。

その後、芯の真綿を様々な色に染め、色彩表現の幅を広げて帯地として発展させ「・金綴錦」と命名いたしました。さらに真綿だけではなく、箔の色も銀色や艶消し、漆を使用するなど

時代に合わせて発展させて参りました。

2016年には会長・弘の娘・朱子が社長に就任し、梶屋高尾は新しい一步を踏み出しました。また、近年では「・金糸」自体の美しさをもっと体感してほしいという思いから「・金糸」を使用した小物づくりや SDGs を意識し残糸や残り布などの再利用にも力を注いでおります。また世界的にも稀な 150cm 巾の手織りの機を制作し多目的な広幅生地制作にも取り組んでおります。

URL : <https://www.masuya-takao.co.jp/>

■福田工芸染繡研究所について

初代、福田喜三郎が昭和 2 年に創業。日本画を学び、絵画手法と技法も取り入れたもの創りで喜三郎は刺繡の名手の一人とうたわれておりました。

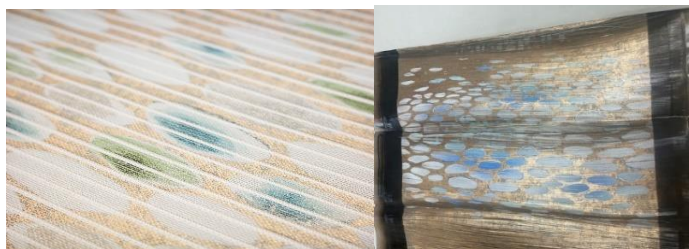
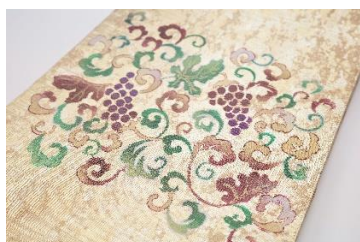
戦後、家業を長男、福田喜重が手伝うようになり多くの問屋、ものづくりの工房などと商いを開始。また、昭和 46 年に独自の発想や技術を表現するため引き染めの工房を建築。

刺繡と染め、箔加工を用いてほとんどの加工を内製にてものづくりができるようになりました。この後、作家活動を始めた福田喜重は昭和 51 年日本伝統工芸展に初入選。奨励賞等を受賞したのち日本工芸会の正会員になり平成 9 年に「刺繡」の重要無形文化財保持者の認定を受けました。

福田工芸染繡研究所は、これまでの歴史や哲学を受け継ぎ、繡染箔の独自技術を用いて、美を追求したものづくりを行っております。

URL : <https://fukuda-ksk.jp>

■SIORI 作品紹介





<SIORI モデルの SDG s の帯 装着例>

■ SIORI の仕組み

SIORI

～購入から完成までの流れ～

